



# Cisco 7200 シリーズ ルータの Call Home の設定

## Configuring Call Home for Cisco 7200 Series Routers

---

**【注意】** シスコ製品をご使用になる前に、安全上の注意 ([www.cisco.com/jp/go/safety\\_warning/](http://www.cisco.com/jp/go/safety_warning/)) をご確認ください。

本書は、米国シスコシステムズ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動 / 変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。

また、契約等の記述については、弊社販売パートナー、または、弊社担当者にご確認ください。

Call Home 機能は、クリティカルなシステム イベントを E メールおよび Web 上で通知します。ポケットベル サービス、標準 E メール、または XML ベース自動解析アプリケーションとの互換性を最適化するため、幅広いメッセージフォーマットが使用できます。この機能の一般的な使用法として、ネットワーク サポート エンジニアのダイレクト ページング、ネットワーク オペレーション センターへの E メール通知、サポート Web サイトへの XML 配信、および Cisco Systems Technical Assistance Center (TAC) との直接的なケース生成があります。このマニュアルは、Cisco IOS Release 12.4(24)T, 12.2(33)SRE1 以降のリリースの Cisco 7200 シリーズ ルータに Call Home 機能を設定する方法を説明します。

## 目次

このマニュアルでは、次の内容について説明します。

- 「Call Home の概要」 (P.2)
- 「Call Home の設定方法」 (P.3)

- 「Call Home 設定情報の表示」 (P.19)
- 「デフォルト設定」 (P.23)
- 「アラート グループ トリガー イベントおよびコマンド」 (P.24)
- 「メッセージのコンテンツ」 (P.26)

## Call Home の概要

Call Home 機能は *Call Home* 宛先プロファイルと呼ばれる複数の受信者にアラートを配信します。各プロファイルは、個々に設定可能なメッセージ フォーマットおよびコンテンツ カテゴリを備えています。Cisco TAC ([callhome@cisco.com](mailto:callhome@cisco.com)) にアラートを送信するため宛先プロファイルがあらかじめ定義されています。または、自分で宛先プロファイルを定義することもできます。アラート メッセージには、設定、環境条件、コンポーネント、および `syslog` イベントの情報が入っています。

柔軟性あるメッセージ配信およびフォーマット オプションにより、特定のサポート要件を簡単に統合できます。

このセクションの内容は次のとおりです。

- 「Call Home を使用するメリット」 (P.2)
- 「Smart Call Home の入手方法」 (P.2)

## Call Home を使用するメリット

Call Home 機能には次のようなメリットがあります。

- 複数のメッセージ フォーマット オプション：
  - ショート テキスト：ポケットベルまたは印刷レポートに適しています。
  - プレーン テキスト：目で読む場合に適した完全にフォーマットされたメッセージ情報
  - XML：Extensible Markup Language (XML; 拡張マークアップ言語) および Adaptive Markup Language (AML) Document Type Definitions (DTD; 文書型定義) を使用したマッチング読み取り可能形式 XML 形式により Cisco TAC との通信が可能になります。
- 複数の同時メッセージ宛先
- 設定、環境条件、コンポーネント、および `syslog` イベントなど複数のメッセージ カテゴリ
- 重大度およびパターン マッチングによるメッセージのフィルタリング
- 定期的なメッセージ送信スケジューリング

## Smart Call Home の入手方法

シスコシステムズと直接サービス契約を締結している場合、ご使用のデバイスを Smart Call Home サービスに登録できます。Smart Call Home は、ご使用のデバイスから送信された Call Home メッセージを分析し、背景説明および推奨事項を提供します。

Smart Call Home は次の機能を提供します。

- 継続的なデバイス ヘルス モニタリング。
- ご使用のデバイスから送信された Call Home メッセージの分析。

- 直接ご使用のデバイスから、またはダウンロード可能 Transport Gateway (TG; トランスポートゲートウェイ) 集約ポイント経由のセキュアなメッセージ転送。複数のデバイスに対応する必要がある場合、またはセキュリティ要件によりデバイスを直接インターネットに接続してはならない場合に TG 集約ポイントを使用できます。
- すべての Call Home デバイスの Call Home メッセージおよび推奨事項、コンポーネントおよび設定情報への Web アクセス。関連する Field Notices、セキュリティ勧告、およびサポート終了日情報にアクセスできます。

Smart Call Home への登録には次の項目が必要です。

- ご使用のルータ SMARTnet 契約番号
- お客様の E メール アドレス
- Cisco.com ID

Smart Call Home の詳細については、次の URL にある Smart Call Home ページを参照してください。

[http://www.cisco.com/en/US/products/ps7334/serv\\_home.html](http://www.cisco.com/en/US/products/ps7334/serv_home.html)

## Call Home の設定方法

Call Home 機能を設定する前に、次の要件および使用上のガイドラインにしたがってください。

- 受信者が受信メッセージの発信元を判断できるよう、連絡先 E メール、電話番号、住所を設定しておく必要があります。
- (定義済みまたはユーザ定義の) 宛先プロファイルを少なくとも 1 つ設定しておく必要があります。設定された宛先プロファイルは、受信エンティティがポケットベル、E メール、または Cisco Smart Call Home などの自動サービスかどうかにより異なります。
  - 宛先プロファイルで E メール メッセージ配信が使用されている場合、Simple Mail Transfer Protocol (SMTP; シンプル メール転送プロトコル) サーバを指定する必要があります。
  - 宛先プロファイルでセキュア HTTP (HTTPS) メッセージ転送が使用されている場合、トラストポイント Certificate Authority (CA; 認証局) を設定する必要があります。
- ルータは E メール サーバまたは宛先 HTTP サーバに IP 接続されている必要があります。
- Cisco Smart Call Home が使用されている場合、設定中のデバイスはアクティブなサービス契約の対象となる必要があります。

Call Home を設定するには、次のタスクを実行します。

- 「連絡先情報の設定」(P.4)
- 「宛先プロファイルの設定」(P.5)
- 「アラート グループへの加入」(P.9)
- 「一般的な E メール オプションの設定」(P.13)
- 「Call Home のイネーブルおよびディセーブル」(P.15)
- 「Call Home 通信の手動送信」(P.15)
- 「Smart Call Home の設定およびイネーブル化」(P.19)



## ヒント

Smart Call Home Web アプリケーション サイトから、基本設定スクリプトをダウンロードし、Smart Call Home および Cisco TAC と使用するよう Call Home 機能を設定できます。またこのスクリプトは、Smart Call Home サービスとのセキュア通信をするためのトラストポイント CA の設定も行います。必要な場合に提供されるこのスクリプトは、次の URL からダウンロードできます。

[http://www.cisco.com/en/US/products/ps7334/serv\\_home.html](http://www.cisco.com/en/US/products/ps7334/serv_home.html)

## 連絡先情報の設定

ルータにはそれぞれ、連絡先 E メール アドレスが入っています。電話番号、住所、契約 ID、カスタマー ID、およびサイト ID をオプションで含めることができます。

連絡先情報を割り当てるには、次の手順に従います。

### 手順の概要

1. **configure terminal**
2. **call-home**
3. **contact-email-addr** *email-address*
4. **phone-number** *+phone-number*
5. **street-address** *street-address*
6. **customer-id** *text*
7. **site-id** *text*
8. **contract-id** *text*

### 手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<b>configure terminal</b>  例： Router> configure terminal	コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	<b>call-home</b>  例： Router(config)# call-home	Call Home コンフィギュレーション サブモードを開始します。
ステップ 3	<b>contact-email-addr</b> <i>email-address</i>  例： Router(cfg-call-home)# contact-email-addr username@example.com	お客様の E メール アドレスを割り当てます。スペースを入れず E メール アドレス形式で、200 文字まで入力できます。
ステップ 4	<b>phone-number</b> <i>+phone-number</i>  例： Router(cfg-call-home)# phone-number +1-800-555-4567	(任意) お客様の電話番号を割り当てます。 <b>(注)</b> 番号はプラス (+) プレフィックスで始まり、ダッシュ (-) と数字だけで入力できます。16 文字まで入力できます。スペースを入力する場合、エントリを引用符 (") で囲む必要があります。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 5	<b>street-address</b> <i>street-addressr</i>  例: Router(cfg-call-home)# street-address "1234 Picaboo Street, Any city, Any state, 12345"	(任意) RMA 機器の出荷先となるお客様の住所を割り当てます。200 文字まで入力できます。スペースを入力する場合、エントリを引用符 (") で囲む必要があります。
ステップ 6	<b>customer-id</b> <i>text</i>  例: Router(cfg-call-home)# customer-id Customer1234	(任意) カスタマー ID を示します。64 文字まで入力できます。スペースを入力する場合、エントリを引用符 (") で囲む必要があります。
ステップ 7	<b>site-id</b> <i>text</i>  例: Router(cfg-call-home)# site-id Site1ManhattanNY	(任意) カスタマー サイト ID を示します。200 文字まで入力できます。スペースを入力する場合、エントリを引用符 (") で囲む必要があります。
ステップ 8	<b>contract-id</b> <i>text</i>  例: Router(cfg-call-home)# contract-id Company1234	(任意) ルータのお客様契約 ID を示します。64 文字まで入力できます。スペースを入力する場合、エントリを引用符 (") で囲む必要があります。

## 例

次に、連絡先情報の設定例を示します。

```
Router# configure terminal
Enter configuration commands, one per line. End with CNTL/Z.
Router(config)# call-home
Router(cfg-call-home)# contact-email-addr username@example.com
Router(cfg-call-home)# phone-number +1-800-555-4567
Router(cfg-call-home)# street-address "1234 Picaboo Street, Any city, Any state, 12345"
Router(cfg-call-home)# customer-id Customer1234
Router(cfg-call-home)# site-id Site1ManhattanNY
Router(cfg-call-home)# contract-id Company1234
Router(cfg-call-home)# exit
```

## 宛先プロファイルの設定

宛先プロファイルには、アラート通知に必要な配信情報が入っています。宛先プロファイルは少なくとも 1 つ必要です。1 つまたは複数のタイプの宛先プロファイルを複数設定できます。

新しい宛先プロファイルを作成して定義したり、定義済みの宛先プロファイルをコピーして使用することもできます。新しい宛先プロファイルを定義する場合、プロファイル名を割り当てる必要があります。



(注) Cisco Smart Call Home サービスを使用する場合、宛先プロファイルは XML メッセージフォーマットでなければなりません。

次のアトリビュートを宛先プロファイルに設定できます。

- プロファイル名：各ユーザ定義宛先プロファイルを一意に識別するストリング。プロファイル名の制限文字数は 31 文字で、大文字と小文字は区別しません。プロファイル名に **all** は使用できません。
- 転送方法：アラート配信に使用する転送メカニズムで、E メールまたは HTTP (HTTPS 含む)
  - ユーザ定義宛先プロファイルについては E メールがデフォルトで、片方または両方の転送メカニズムをイネーブルにできます。両方の方式をディセーブルにする場合、E メールがイネーブルになります。
  - 定義済みの Cisco TAC プロファイルについては、両方ではなく、片方の転送メカニズムをイネーブルにできます。
- 送信先アドレス：アラート送信先となる転送方式に関連した実際のアドレス
- メッセージフォーマット：アラート送信に使用するメッセージフォーマット。ユーザ定義宛先プロファイルのフォーマット オプションは、**long-text**、**short-text**、または **XML** です。デフォルトは **XML** です。定義済み Cisco TAC プロファイルについては、**XML** だけ指定できます。
- メッセージ サイズ：宛先メッセージの最大サイズ。有効な範囲は 50～3,145,728 バイトで、デフォルトは 3,145,728 バイトです。

このセクションの内容は次のとおりです。

- [「新しい宛先プロファイルの作成」 \(P.6\)](#)
- [「宛先プロファイルのコピー」 \(P.8\)](#)
- [「宛先プロファイルの名前変更」 \(P.8\)](#)

## 新しい宛先プロファイルの作成

新しい宛先プロファイルを作成し、設定するには、次の手順に従います。

### 手順の概要

1. **configure terminal**
2. **call-home**
3. **profile name**
4. **[no] destination transport method {email | http}**
5. **destination address {email email-address | http url}**
6. **destination preferred-msg-format {long-text | short-text | xml}**
7. **destination message-size bytes**
8. **active**
9. **exit**
10. **end**
11. **show call-home profile {name | all}**

## 手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<code>configure terminal</code>  例: Router# configure terminal	コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	<code>call-home</code>  例: Router(config)# call-home	Call Home コンフィギュレーション サブモードを開始します。
ステップ 3	<code>profile name</code>  例: Router(config-call-home)# profile profile1	指定された宛先プロファイルの Call Home 宛先プロファイル コンフィギュレーション サブモードを開始します。指定した宛先プロファイルが存在しない場合、プロファイルが作成されます。
ステップ 4	<code>[no] destination transport-method {email   http}</code>  例: Router(cfg-call-home-profile)# destination transport-method email	(任意) メッセージ転送方式をイネーブルにします。no オプションを指定すると、方式はディセーブルになります。
ステップ 5	<code>destination address {email email-address   http url}</code>  例: Router(cfg-call-home-profile)# destination address email myaddress@example.com	Call Home メッセージを送信する宛先 E メールアドレスまたは URL を設定します。  (注) 宛先 URL を入力する場合、サーバがセキュアサーバかどうかにより <code>http://</code> または <code>https://</code> のいずれかを入力します。宛先サーバがセキュアサーバの場合、トラストポイント CA も設定する必要があります。
ステップ 6	<code>destination preferred-msg-format {long-text   short-text   xml}</code>  例: Router(cfg-call-home-profile)# destination preferred-msg-format xml	(任意) 優先メッセージフォーマットを設定します。デフォルトは XML です。
ステップ 7	<code>destination message-size bytes</code>  例: Router(cfg-call-home-profile)# destination message-size 3,145,728	(任意) 宛先プロファイルの宛先メッセージ最大サイズを設定します。
ステップ 8	<code>active</code>  例: Router(cfg-call-home-profile)# active	宛先プロファイルをイネーブルにします。デフォルトでは、プロファイルは作成されたときにイネーブルになります。
ステップ 9	<code>exit</code>  例: Router(cfg-call-home-profile)# exit	Call Home 宛先プロファイル コンフィギュレーション サブモードを終了し、Call Home コンフィギュレーション サブモードに戻ります。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 10	<code>end</code>  例： Router(cfg-call-home)# end	特権 EXEC モードに戻ります。
ステップ 11	<code>show call-home profile {name   all}</code>  例： Router# show call-home profile profile1	指定されたプロファイルまたはすべての設定済みプロファイルの宛先プロファイル設定を表示します。

## 宛先プロファイルのコピー

既存のプロファイルをコピーして新しい宛先プロファイルを作成するには、次の手順に従います。

### 手順の概要

1. `configure terminal`
2. `call-home`
3. `copy profile source-profile target-profile`

### 手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<code>configure terminal</code>  例： Router# configure terminal	コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	<code>call-home</code>  例： Router(config)# call-home	Call Home コンフィギュレーション サブモードを開始します。
ステップ 3	<code>copy profile source-profile target-profile</code>  例： Router(cfg-call-home)# copy profile profile1 profile2	既存の宛先プロファイルと同じコンフィギュレーション設定で新しい宛先プロファイルを作成します。

## 宛先プロファイルの名前変更

既存のプロファイルの名前を変更するには、次の手順に従います。

### 手順の概要

1. `configure terminal`
2. `call-home`
3. `rename profile source-profile target-profile`

## 手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<code>configure terminal</code>  例： Router# <code>configure terminal</code>	コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	<code>call-home</code>  例： Router(config)# <code>call-home</code>	Call Home コンフィギュレーション サブモードを開始します。
ステップ 3	<code>rename profile source-profile target-profile</code>  例： Router(cfg-call-home)# <code>rename profile profile1 profile2</code>	既存の宛先プロファイルの名前を変更します。

## アラート グループへの加入

アラート グループは、すべてのルータでサポートされている Call Home アラートをあらかじめ定義したサブセットです。Call Home アラートのタイプにより、異なるタイプの Call Home アラートは異なるアラート グループにグループ化されます。使用できるアラート グループは次のとおりです。

- Configuration
- Environment
- Inventory
- Syslog

各アラート グループのトリガー イベントの一覧を「アラート グループ トリガー イベントおよびコマンド」(P.24)、アラート グループ メッセージの内容の一覧を「メッセージのコンテンツ」(P.26) に示します。

宛先プロファイルで 1 つまたは複数のアラート グループを受信するよう選択できます。



(注) Call Home アラートは、その Call Home アラートが入ったアラート グループに加入している宛先プロファイルにだけ送信されます。また、アラート グループをイネーブルにする必要があります。

## 定期通知

宛先プロファイルを Configuration または Inventory いずれかのアラート グループに加入させる場合、アラート グループ メッセージを指定した時間に非同期または定期的に受信するよう選択できます。指定可能な時間間隔は次のとおりです。

- Daily : 時間 : 分形式 `hh:mm` の 24 時間クロック (例 : 14:30) を使用した時刻を指定します。
- Weekly : `day hh:mm` 形式による曜日と時刻を指定します。曜日はスペルアウトされます (例 : monday)。
- Monthly : 1 ~ 31 の数値による日付と時刻を `date hh:mm` 形式で指定します。

## メッセージ重大度しきい値

宛先プロファイルを Environment または Syslog アラート グループに加入させる場合、メッセージの重大度に基づいてアラート グループ メッセージのリレーのしきい値を設定できます。宛先プロファイルの指定しきい値より値が低いメッセージは、宛先に送信されません。

重大度しきい値は表 1 のキーワードを使用して設定され、範囲は catastrophic (レベル 9、緊急度最高) から debugging (レベル 0、緊急度最低) に渡ります。重大度しきい値が設定されていない場合、デフォルトは debugging (レベル 0) です。



---

(注) 重大度レベルが低い syslog メッセージに加入させるのはお勧めしません。Syslog メッセージをトリガーする数が多すぎてシステム パフォーマンスが低下するおそれがあるためです。

---



---

(注) Call Home 重大度レベルは、システム メッセージ ログの重大度レベルとは同じではありません。

---

表 1 重大度と Syslog レベルのマッピング

レベル	キーワード	Syslog レベル	説明
9	<b>catastrophic</b>	N/A	ネットワーク全体が壊滅的な障害を受けています。
8	<b>disaster</b>	N/A	ネットワークへ多大な影響があります。
7	<b>fatal</b>	Emergency (0)	システムは使用不可能です。
6	<b>critical</b>	Alert (1)	クリティカルな状態で、早急な対応が必要です。
5	<b>major</b>	Critical (2)	深刻な状態。
4	<b>minor</b>	Error (3)	深刻ではない状態。
3	<b>warning</b>	Warning (4)	警告状態。
2	<b>notification</b>	Notice (5)	基本的な通知メッセージおよび情報メッセージです。単独でそれほど重要ではないメッセージの可能性が大きいです。
1	<b>normal</b>	Information (6)	通常状態に戻ることを示す通常イベントです。
0	<b>debugging</b>	Debug (7)	デバッグメッセージです。

## Syslog パターン マッチング

宛先プロファイルを Syslog アラート グループに加入させる場合、各 syslog メッセージ内で一致するテキストパターンを任意に指定できます。パターンを設定する場合、指定されたパターンが入っており、重大度しきい値を満たす Syslog アラート グループ メッセージだけが送信されます。パターンにスペースが入っている場合、設定時にそのパターンを引用符 ("" ) で囲む必要があります。パターンは、宛先プロファイルごとに 5 個まで指定できます。

宛先プロファイルを 1 つまたは複数のアラート グループに加入させる場合、次の手順に従います。

### 手順の概要

1. **configure terminal**
2. **call-home**
3. **alert-group {all | configuration | environment | inventory | syslog}**
4. **profile name**
5. **subscribe-to-alert-group all**
6. **subscribe-to-alert-group configuration [periodic {daily hh:mm | monthly date hh:mm | weekly day hh:mm}]**
7. **subscribe-to-alert-group environment [severity {catastrophic | disaster | fatal | critical | major | minor | warning | notification | normal | debugging}]**
8. **subscribe-to-alert-group inventory [periodic {daily hh:mm | monthly date hh:mm | weekly day hh:mm}]**
9. **subscribe-to-alert-group syslog [severity {catastrophic | disaster | fatal | critical | major | minor | warning | notification | normal | debugging}] [pattern string]**
10. **exit**

## 手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<code>configure terminal</code>  例: Router# <code>configure terminal</code>	コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	<code>call-home</code>  例: Router(config)# <code>call-home</code>	Call Home コンフィギュレーション サブモードを開始します。
ステップ 3	<code>alert-group {all   configuration   environment   inventory   syslog}</code>  例: Router(cfg-call-home)# <code>alert-group all</code>	指定されたアラート グループをイネーブルにします。キーワード <code>all</code> を指定して、すべてのアラート グループをイネーブルにします。デフォルトでは、すべてのアラート グループがイネーブルになっています。
ステップ 4	<code>profile name</code>  例: Router(cfg-call-home)# <code>profile profile1</code>	指定された宛先プロファイルの Call Home 宛先プロファイル コンフィギュレーション サブモードを開始します。
ステップ 5	<code>subscribe-to-alert-group all</code>  例: Router(cfg-call-home-profile)# <code>subscribe-to-alert-group all</code>	すべての使用可能なアラート グループに加入します。 ステップ 6～9 で説明しているように、特定のタイプごとにアラート グループに個別に加入することもできます。
ステップ 6	<code>subscribe-to-alert-group configuration [periodic {daily hh:mm   monthly date hh:mm   weekly day hh:mm}]</code>  例: Router(cfg-call-home-profile)# <code>subscribe-to-alert-group configuration periodic daily 12:00</code>	この宛先プロファイルを Configuration アラート グループに加入させます。「 <a href="#">一般的な E メール オプションの設定 (P.13)</a> 」で説明しているように、定期通知向けの Configuration アラート グループを設定できます。
ステップ 7	<code>subscribe-to-alert-group environment [severity {catastrophic   disaster   fatal   critical   major   minor   warning   notification   normal   debugging}]</code>  例: Router(cfg-call-home-profile)# <code>subscribe-to-alert-group environment severity major</code>	この宛先プロファイルを Environment アラート グループに加入させます。「 <a href="#">一般的な E メール オプションの設定 (P.13)</a> 」で説明しているように、Environment アラート グループを設定し、重大度でメッセージをフィルタできます。
ステップ 8	<code>subscribe-to-alert-group inventory periodic daily 14:30</code>  例: Router(cfg-call-home-profile)# <code>subscribe-to-alert-group inventory periodic monthly 1 12:00</code>	この宛先プロファイルを Inventory アラート グループに加入させます。「 <a href="#">一般的な E メール オプションの設定 (P.13)</a> 」で説明しているように、定期通知向けの Inventory アラート グループを設定できます。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 9	<pre>subscribe-to-alert-group syslog [severity {catastrophic   disaster   fatal   critical   major   minor   warning   notification   normal   debugging}] [pattern string]</pre> <p>例:</p> <pre>Router(cfg-call-home-profile)# subscribe syslog severity major</pre>	この宛先プロファイルを Syslog アラート グループに加入させます。「一般的な E メール オプションの設定」(P.13)で説明しているように、Syslog アラート グループを設定し、重大度でメッセージをフィルタできます。Syslog メッセージ内で一致するパターンを指定できます。パターンにスペースが入っている場合、そのパターンを引用符 ("") で囲む必要があります。
ステップ 10	<pre>exit</pre> <p>例:</p> <pre>Router(cfg-call-home-profile)# exit</pre>	Call Home 宛先プロファイル コンフィギュレーション サブモードを終了します。

## 一般的な E メール オプションの設定

E メール メッセージ転送を使用するには、少なくとも 1 つの Simple Mail Transfer Protocol (SMTP; シンプル メール転送プロトコル) E メール サーバ アドレスを設定する必要があります。

- *from* E メール アドレスおよび *reply-to* E メール アドレスを設定し、バックアップ E メール サーバを 4 台まで指定できます。E メール メッセージまたは HTTP メッセージに任意にレート制限を設定し、VPN Routing or Forwarding (VRF; VPN ルーティング/転送) インスタンス名を指定して Call Home E メール メッセージを送信できます。
- バックアップ E メール サーバは、プライオリティ番号が異なる **mail-server** コマンドを繰り返し指定して定義できます。
- **mail-server priority number** パラメータは 1 ~ 100 まで設定できます。プライオリティが最も高い (プライオリティ番号が最も低い) サーバを最初に試します。

一般的な E メール オプションを設定するには、次の手順に従います。

### 手順の概要

1. **configure terminal**
2. **call-home**
3. **mail-server { ipv4-address | name } priority number**
4. **sender from email-address**
5. **sender reply-to email-address**
6. **rate-limit number**
7. **vrf name**

## 手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<code>configure terminal</code>  例： Router# configure terminal	コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	<code>call-home</code>  例： Router(config)# call-home	Call Home コンフィギュレーション サブモードを開始します。
ステップ 3	<code>mail-server {ipv4-address   name} priority number</code>  例： Router(cfg-call-home)# mail-server stmp.example.com priority 1	E メール サーバ アドレスおよび設定済み E メール サーバ 中のその相対的なプライオリティを割り当てます。  次のいずれかを指定します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>E メール サーバの IP アドレス、または</li> <li>64 文字以下の E メール サーバの Fully Qualified Domain Name (FQDN; 完全修飾ドメイン名)</li> </ul> 1 (プライオリティ最高) と 100 (プライオリティ最低) の間のプライオリティ番号を割り当てます。
ステップ 4	<code>sender from email-address</code>  例： Router(cfg-call-home)# sender from username@example.com	(任意) Call Home E メール メッセージの <code>from</code> フィールドに表示される E メール アドレスを割り当てます。アドレスが指定されていない場合、連絡先 E メール アドレスが使用されます。
ステップ 5	<code>sender reply-to email-address</code>  例： Router(cfg-call-home)# sender reply-to username@example.com	(任意) Call Home E メール メッセージの <code>reply-to</code> フィールドに表示される E メール アドレスを割り当てます。
ステップ 6	<code>rate-limit number</code>  例： Router(cfg-call-home)# rate-limit 40	(任意) 1 分あたりに送信されるメッセージ数に 1～60 の範囲で制限を指定します。デフォルトは 20 です。
ステップ 7	<code>vrf name</code>  例： Router(cfg-call-home)# vrf mgmt-vrf	(任意) Call Home E メール メッセージを送信する VRF インスタンスを指定します。VRF が指定されていない場合、 <b>show ip route</b> コマンドを入力して、グローバルルーティング テーブルを使用します。  (注) VRF サポートは 15.0 (1) M リリース以降から使用できます。  (注) VRF 経由で https メッセージを送信するには、 <b>config t; ip http client source-interface mgmt-intf</b> を設定します。mgmt-vrf を使用するにはまず mgmt-intf を設定します。  (注) vrf call home コマンドの詳細については、 <a href="http://www.cisco.com/en/US/docs/ios/ha/command/reference/ha_s3.html#wp1144302">http://www.cisco.com/en/US/docs/ios/ha/command/reference/ha_s3.html#wp1144302</a> を参照してください。

## 例

次に、プライマリ E メール サーバおよびセカンダリ E メール サーバなど、一般的な E メール パラメータの設定例を示します。

```
Router# configure terminal
Enter configuration commands, one per line. End with CNTL/Z.
Router(config)# call-home
Router(cfg-call-home)# mail-server smtp.example.com priority 1
Router(cfg-call-home)# mail-server 192.168.0.1 priority 2
Router(cfg-call-home)# sender from username@example.com
Router(cfg-call-home)# sender reply-to username@example.com
Router(cfg-call-home)# vrf mgmt-vrf
Router(cfg-call-home)# exit
Router(config)#9
```

## Call Home のイネーブルおよびディセーブル

Call Home 機能をイネーブルまたはディセーブルにするには、次の手順に従います。

### 手順の概要

1. `configure terminal`
2. `service call-home`
3. `no service call-home`

### 手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<code>configure terminal</code>  例： Router# configure terminal	コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	<code>service call-home</code>  例： Router(config)# service call-home	Call Home 機能をイネーブルにします。
ステップ 3	<code>no service call-home</code>  例： Router(config)# no service call-home	Call Home 機能をディセーブルにします。

## Call Home 通信の手動送信

数種類の Call Home 通信を手動で送信できます。Call Home 通信を送信するには、次のタスクを実行します。

- 「[Call Home テスト メッセージの手動送信](#)」 (P.16)
- 「[Call Home アラート グループ メッセージの手動送信](#)」 (P.16)
- 「[Call Home 分析およびレポート要求の送信](#)」 (P.17)

- 「シスコまたは E メール アドレスへのコマンド出力の送信」(P.18)

## Call Home テスト メッセージの手動送信

**call-home test** コマンドを使用して、ユーザ定義の Call Home テスト メッセージを送信できます。Call Home テスト メッセージを手動で送信するには、次の手順に従います。

### 手順の概要

1. **call-home test ["test-message"] profile name**

### 手順の詳細

コマンドまたはアクション	目的
<b>ステップ 1</b> <code>call-home test ["test-message"] profile name</code>  <b>例:</b> Router# <code>call-home test profile profile1</code>	テスト メッセージを指定された宛先プロファイルに送信します。ユーザ定義テスト メッセージ テキストは任意ですが、スペースが含まれている場合は、引用符 (") で囲む必要があります。ユーザ定義メッセージが設定されていない場合、デフォルト メッセージが送信されます。

## Call Home アラート グループ メッセージの手動送信

**call-home send** コマンドを使用して、特定のアラート グループ メッセージを手動で送信できます。

Call Home アラート グループメッセージを手動で送信する場合は、次の注意事項に従ってください。

- 手動で送信できるのは Configuration アラート グループおよび Inventory アラート グループだけです。
- Configuration または Inventory アラート グループ メッセージを手動でトリガーし、宛先プロファイル名を指定する場合、プロファイルのアクティブ ステータス、加入ステータス、または重大度設定に関係なく、メッセージは宛先プロファイルに送信されます。
- Configuration または Inventory アラート グループ メッセージを手動でトリガーし、宛先プロファイル名を指定しない場合、メッセージは指定されたアラート グループに通常または定期的な加入をしているすべてのアクティブ プロファイルに送信されます。

Call Home アラート グループ メッセージを手動でトリガーするには、次の手順に従います。

### 手順の概要

1. **call-home send alert-group configuration [profile name]**
2. **call-home send alert-group inventory [profile name]**

## 手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<pre>call-home send alert-group configuration [profile name]</pre> <p>例:</p> <pre>Router# call-home send alert-group configuration profile profile1</pre>	Configuration アラート グループ メッセージを 1 つの宛先プロファイル (指定されている場合) または加入済みのすべての宛先プロファイルに送信します。
ステップ 2	<pre>call-home send alert-group inventory [profile name]</pre> <p>例:</p> <pre>Router# call-home send alert-group inventory</pre>	Inventory アラート グループ メッセージを指定されている 1 つの宛先プロファイルまたは加入済みのすべての宛先プロファイルに送信します。

## Call Home 分析およびレポート要求の送信

**call-home request** コマンドを使用して、システム固有の便利な分析およびレポート情報を送信するため、システムに関する情報をシスコに送信できます。セキュリティ アラート、既知のバグ、ベストプラクティス、コマンドリファレンスなど幅広いレポートを要求できます。

Call Home 分析およびレポート要求を手動で送信する場合、次の注意事項に従ってください。

- **profile name** が指定されている場合、要求はプロファイルに送信されます。プロファイルが指定されていない場合、要求は Cisco TAC プロファイルに送信されます。Call Home 要求の受信者プロファイルは、イネーブルにする必要はありません。要求メッセージを Cisco TAC に転送し、ユーザが Smart Call Home サービスから応答を受信できるように、プロファイルにはトランスポートゲートウェイが設定されている E メールアドレスを指定する必要があります。
- **ccoid user-id** は、Smart Call Home ユーザの登録 ID です。**user-id** が指定されている場合、応答は登録ユーザの E メールアドレスに送信されます。**user-id** が指定されていない場合、応答はデバイスの連絡先 E メールアドレスに送信されます。
- 要求されたレポートのタイプを指定するキーワードに基づき、次の情報が戻ります。
  - **config-sanity** : 現在の実行コンフィギュレーションに関するベストプラクティスの情報
  - **bugs-list** : 実行中のバージョンおよび現在適用されている機能の既知のバグ
  - **command-reference** : 実行コンフィギュレーションのすべてのコマンドへの参照リンク
  - **product-advisory** : ネットワークのデバイスに影響を与える可能性がある Product Security Incident Response Team (PSIRT) 通知、End of Life (EOL; 終了日) または End of Sales (EOS; 販売終了) 通知、または Field Notices (FN)

Cisco Output Interpreter ツールから分析およびレポート情報の要求を送信するには、次の手順に従います。

## 手順の概要

1. **call-home request output-analysis "show-command" [profile name] [ccoid user-id]**
2. **call-home request {config-sanity | bugs-list | command-reference | product-advisory} [profile name] [ccoid user-id]**

## 手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<pre>call-home request output-analysis "show-command" [profile name] [ccoid user-id]</pre> <p>例: Router# call-home request output-analysis "show diag" profile TG</p>	分析のため指定した <b>show</b> コマンドの出力を送信します。 <b>show</b> コマンドは引用符 (") で囲む必要があります。
ステップ 2	<pre>call-home request {config-sanity   bugs-list   command-reference   product-advisory} [profile name] [ccoid user-id]</pre> <p>例: Router# call-home request config-sanity profile TG</p>	分析のため <b>show running-config all</b> 、 <b>show version</b> 、 <b>show module</b> コマンドなど所定のコマンドセットの出力を送信します。また、 <b>call home request product-advisory</b> サブコマンドにはすべての <b>inventory alert group</b> コマンドが組み込まれます。 <b>request</b> の後に指定されたキーワードにより、要求されたレポートのタイプが指定されます。

## 例

次に、ユーザ指定の **show** コマンドの分析要求の例を示します。

```
Router# call-home request output-analysis "show diag" profile TG
```

## シスコまたは E メール アドレスへのコマンド出力の送信

**call-home send** コマンドを使用して CLI コマンドを実行し、コマンド出力をシスコまたは指定の E メール アドレスへ E メールで送信できます。

コマンド出力を送信する場合は、次の注意事項に従ってください。

- 指定された CLI コマンドは、すべてのモジュールのコマンドを含む、任意の **run** コマンドの場合があります。このコマンドは引用符 (") で囲む必要があります。
- E メール アドレスが指定されている場合、コマンド出力はそのアドレスに送信されます。E メール アドレスが指定されていない場合、出力は Cisco TAC ([attach@cisco.com](mailto:attach@cisco.com)) に送信されます。E メールは、件名にサービス番号が付き (指定されている場合)、**long-text** 形式で送信されます。
- サービス番号は、E メール アドレスが指定されていない場合、または Cisco TAC E メール アドレスが指定されている場合だけ必要です。

CLI コマンドを実行し、コマンド出力を E メールで送信するには、次の手順に従います。

## 手順の概要

- call-home send "command" [email email-addr] [service-number SR]**

## 手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<pre>call-home send "command" [email email-addr] [service-number SR]</pre> <p>例: Router# call-home send "show diag" email support@example.com</p>	指定された CLI コマンドを実行し、出力を E メールで送信します。

## 例

次に、CLI コマンドの出力をユーザ指定の E メールアドレスに送信する例を示します。

```
Router# call-home send "show diag" email support@example.com
```

## Smart Call Home の設定およびイネーブル化

Cisco Smart Call Home サービスのアプリケーションおよび設定に関する情報については、次の URL にある『*Smart Call Home User Guide*』の「FastStart」の項を参照してください。

[http://www.cisco.com/en/US/docs/switches/lan/smart\\_call\\_home/SCH30\\_Ch1.html#wp1048666](http://www.cisco.com/en/US/docs/switches/lan/smart_call_home/SCH30_Ch1.html#wp1048666)

ユーザガイドには、Smart Call Home メッセージを直接ご使用のデバイスから、または Transport Gateway (TG; トランスポートゲートウェイ) 集約ポイント経由で送信する設定例が記載されています。複数のデバイスに対応する必要がある場合、またはセキュリティ要件によりデバイスを直接インターネットに接続してはならない場合に TG 集約ポイントを使用できます。

Smart Call Home サービスは転送方式に HTTPS を使用するため、『*Smart Call Home User Guide*』で説明しているように、その CA をトラストポイントとして設定する必要があります。

## Call Home 設定情報の表示

さまざまな **show call-home** コマンドを使用して、Call Home の設定情報を表示できます。

設定済み Call Home 情報を表示するには、次の手順に従います。

### 手順の概要

1. **show call-home**
2. **show call-home detail**
3. **show call-home alert-group**
4. **show call-home mail-server status**
5. **show call-home profile {all | name}**
6. **show call-home statistics**

### 手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<b>show call-home</b>  例： Router# show call-home	Call Home 設定の要約を表示します。
ステップ 2	<b>show call-home detail</b>  例： Router# show call-home detail	Call Home 設定の詳細を表示します。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 3	<code>show call-home alert-group</code>  例: Router# show call-home alert-group	使用できるアラート グループおよびそのステータスを表示します。
ステップ 4	<code>show call-home mail-server status</code>  例: Router# show call-home mail-server status	設定済み E メール サーバの可用性を確認し、表示します。
ステップ 5	<code>show call-home profile {all   name}</code>  例: Router# show call-home profile all	指定された宛先プロファイルの設定を表示します。キーワード <b>all</b> を使用して、すべての宛先プロファイルの設定を表示します。
ステップ 6	<code>show call-home statistics</code>  例: Router# show call-home statistics	Call Home イベントの統計情報を表示します。

## 例

次に、**show call-home** コマンドの異なるオプションを使用した場合の、サンプル出力例を示します。

### 例 1 設定済み Call Home 情報の要約

```
Router# show call-home
Current call home settings:
  call home feature : disable
  call home message's from address: router@example.com
  call home message's reply-to address: support@example.com
  vrf for call-home messages: mgmt-vrf
  contact person's email address: technical@example.com
  contact person's phone number: +1-408-555-1234
    street address: 1234 Picaboo Street, Any city, Any state, 12345
    customer ID: ExampleCorp
    contract ID: X123456789
    site ID: SantaClara
  Mail-server[1]: Address: smtp.example.com Priority: 1
  Mail-server[2]: Address: 192.168.0.1 Priority: 2
  Rate-limit: 20 message(s) per minute
Available alert groups:
  Keyword                State  Description
  -----
  configuration          Disable configuration info
  environment            Disable environmental info
  inventory              Enable  inventory info
  syslog                 Disable syslog info
Profiles:
  Profile Name: campus-noc
  Profile Name: CiscoTAC-1
Router#
```

### 例 2 設定済み Call Home 情報の詳細

```
Router# show call-home detail
Current call home settings:
  call home feature : disable
```

```

call home message's from address: router@example.com
call home message's reply-to address: support@example.com
vrf for call-home messages: mgmt-vrf
contact person's email address: technical@example.com
contact person's phone number: +1-408-555-1234
street address: 1234 Picaboo Street, Any city, Any state, 12345
customer ID: ExampleCorp
contract ID: X123456789
site ID: SantaClara
Mail-server[1]: Address: smtp.example.com Priority: 1
Mail-server[2]: Address: 192.168.0.1 Priority: 2
Rate-limit: 20 message(s) per minute
Available alert groups:
  Keyword          State  Description
  -----
  configuration    Disable configuration info
  environment      Disable environmental info
  inventory        Enable  inventory info
  syslog           Disable syslog info
Profiles:
Profile Name: campus-noc
Profile status: ACTIVE
Preferred Message Format: long-text
Message Size Limit: 3145728 Bytes
Transport Method: email
Email address(es): noc@example.com
HTTP address(es): Not yet set up
Alert-group          Severity
-----
inventory            normal

Syslog-Pattern      Severity
-----
N/A                  N/A
Profile Name: CiscoTAC-1
Profile status: INACTIVE
Preferred Message Format: xml
Message Size Limit: 3145728 Bytes
Transport Method: email
Email address(es): callhome@cisco.com
HTTP address(es): https://tools.cisco.com/its/service/oddce/services/DDCEService
Periodic configuration info message is scheduled every 27 day of the month at 12:13
Periodic inventory info message is scheduled every 27 day of the month at 11:58
Alert-group          Severity
-----
environment          minor
inventory            normal
Syslog-Pattern      Severity
-----
.*                    major
Router#

```

### 例 3 使用できる Call Home アラート グループ

```

Router# show call-home alert-group
Available alert groups:
  Keyword          State  Description
  -----
  configuration    Disable configuration info
  environment      Disable environmental info
  inventory        Enable  inventory info
  syslog           Disable syslog info
Router#

```

**例 4 E メール サーバ ステータス 情報**

```
Router# show call-home mail-server status
Please wait. Checking for mail server status ...

Translating "smtp.example.com"
Mail-server[1]: Address: smtp.example.com Priority: 1 [Not Available]
Mail-server[2]: Address: 192.168.0.1 Priority: 2 [Not Available]
Router#
```

**例 5 すべての宛先プロファイル（定義済みおよびユーザ定義）の情報**

```
Router# show call-home profile all
Profile Name: campus-noc
  Profile status: ACTIVE
  Preferred Message Format: long-text
  Message Size Limit: 3145728 Bytes
  Transport Method: email
  Email address(es): noc@example.com
  HTTP address(es): Not yet set up
  Alert-group          Severity
  -----
  inventory            normal
  Syslog-Pattern       Severity
  -----
  N/A                  N/A

Profile Name: CiscoTAC-1
  Profile status: INACTIVE
  Preferred Message Format: xml
  Message Size Limit: 3145728 Bytes
  Transport Method: email
  Email address(es): callhome@cisco.com
  HTTP address(es): https://tools.cisco.com/its/service/oddce/services/DDCEService

  Periodic configuration info message is scheduled every 27 day of the month at 12:13

  Periodic inventory info message is scheduled every 27 day of the month at 11:58

  Alert-group          Severity
  -----
  environment         minor
  inventory            normal
  Syslog-Pattern       Severity
  -----
  .*                   major

Router#
```

**例 6 ユーザ定義宛先プロファイルの情報**

```
Router# show call-home profile campus-noc
Profile Name: campus-noc
  Profile status: ACTIVE
  Preferred Message Format: long-text
  Message Size Limit: 3145728 Bytes
  Transport Method: email
  Email address(es): noc@example.com
  HTTP address(es): Not yet set up
  Alert-group          Severity
  -----
  inventory            normal
```

```

Syslog-Pattern          Severity
-----
N/A                     N/A
Router#

```

### 例 7 Call Home 統計情報

```

Router# show call-home statistics
Message Types      Total      Email      HTTP
-----
Total Success     6          6          0
  Config          4          4          0
  Environment      0          0          0
  Inventory        2          2          0
  SysLog           0          0          0
  Test             0          0          0
  Request          0          0          0
  Send-CLI        0          0          0

Total In-Queue     0          0          0
  Config          0          0          0
  Environment      0          0          0
  Inventory        0          0          0
  SysLog           0          0          0
  Test             0          0          0
  Request          0          0          0
  Send-CLI        0          0          0

Total Failed       0          0          0
  Config          0          0          0
  Environment      0          0          0
  Inventory        0          0          0
  SysLog           0          0          0
  Test             0          0          0
  Request          0          0          0
  Send-CLI        0          0          0

Total Ratelimit
  -dropped        0          0          0
  Config          0          0          0
  Environment      0          0          0
  Inventory        0          0          0
  SysLog           0          0          0
  Test             0          0          0
  Request          0          0          0
  Send-CLI        0          0          0

Last call-home message sent time: 2009-02-04 18:32:32 GMT+00:00
Router#

```

## デフォルト設定

表 2 に Call Home のデフォルト設定の一覧を示します。

表 2 Call Home デフォルト設定

パラメータ	デフォルト
Call Home 機能ステータス	ディセーブル
ユーザ定義プロファイル ステータス	Active

表 2 Call Home デフォルト設定 (続き)

パラメータ	デフォルト
定義済み Cisco TAC プロファイル ステータス	Inactive
転送方式	E-mail
メッセージフォーマット タイプ	XML
long text、short text、または XML 形式で送信されたメッセージの宛先メッセージサイズ	3,145,728
アラート グループ ステータス	イネーブル
Call Home メッセージ重大度しきい値	0 (デバッグ)
1 分当たりのメッセージのメッセージ レート制限	20

## アラート グループ トリガー イベントおよびコマンド

Call Home トリガー イベントはアラート グループにグループ化されます。各アラート グループには、イベント発生時に実行する CLI コマンドが割り当てられています。CLI コマンドの出力は、送信メッセージに含まれています。表 3 に、各イベントの重大度レベルおよびアラート グループに対して実行した CLI コマンドなど、各アラート グループに含まれているトリガー イベントの一覧を示します。

表 3 Call Home アラート グループ、イベント、およびアクション

アラート グループ	Call Home トリガー イベント	Syslog イベント	重大度	説明および実行した CLI コマンド
Configuration				ユーザが生成した設定の要求 (TAC に送信) 実行した CLI コマンド: <b>show c7200 (または show c7301)</b> <b>show diag</b> <b>show inventory</b> <b>show running-config all</b> <b>show startup-config</b> <b>show version</b>
Environmental				電源、ファン、温度アラームなど環境検知要素に関連したイベント (TAC に送信) 実行した CLI コマンド: <b>show c7200 (または show c7301)</b> <b>show diag</b> <b>show environment</b> <b>show environment all</b> <b>show inventory</b> <b>show logging</b>
		SHUT	0	環境モニタがシャットダウンを開始しました。
		ENVCRIT	2	温度または電圧測定値がクリティカルなしきい値を超えました。
		BLOWER	3	必要な数のファントレイが存在しません。
		ENVWARN	4	温度または電圧測定値が警告しきい値を超えました。

表 3 Call Home アラート グループ、イベント、およびアクション (続き)

アラート グループ	Call Home トリガー イベント	Syslog イベント	重大度	説明および実行した CLI コマンド
		RPSFAIL	4	電源に故障したチャンネルがあります。
	ENVM	PSCHANGE	6	電源名の変更
		PSLEV	6	電源状態の変更
		PSOK	6	電源が正常に動作しているようです。
Inventory				<p>装置がコールド スタートした場合は必ず、または FRU が挿入または取り外された場合に Inventory ステータスになります。これはクリティカルではないイベントと見なされ、情報はステータスおよびエンタイトルメントに使用されます (TAC に送信)</p> <p>実行した CLI コマンド :</p> <p><b>show c7200 (または show c7301)</b>  <b>show diag</b>  <b>show inventory oid</b>  <b>show version</b></p>
	HARDWARE_REMOVAL	REMCARD	6	カードがスロット %d から取り外されました。インターフェイスはディセーブルになっています。
	HARDWARE_INSERTION	INSCARD	6	カードがスロット %d に挿入されました。管理上インターフェイスはシャットダウンします。
Syslog				<p>Syslog に記録されたイベント</p> <p>実行した CLI コマンド :</p> <p><b>show inventory</b>  <b>show logging</b></p>
	SYSLOG	LOG_EMERG	0	システムは使用不可能です。
	SYSLOG	LOG_ALERT	1	早急に対処する必要があります。
	SYSLOG	LOG_CRIT	2	クリティカルな状態
	SYSLOG	LOG_ERR	3	エラー状態
	SYSLOG	LOG_WARNING	4	警告状態
	SYSLOG	LOG_NOTICE	5	正常ですが意味のある状態
	SYSLOG	LOG_INFO	6	情報
	SYSLOG	LOG_DEBUG	7	デバッグ レベル メッセージ
Test		TEST		<p>ユーザ生成テスト メッセージ (TAC に送信)</p> <p>実行した CLI コマンド :</p> <p><b>show c7200 (または show c7301)</b>  <b>show diag</b>  <b>show inventory</b>  <b>show version</b></p>

## メッセージのコンテンツ

次の表に、アラート グループ メッセージのコンテンツ形式を表示します。

- 表 4 では、short-text メッセージのコンテンツ フィールドを説明します。
- 表 5 では、すべての long-text メッセージおよび XML メッセージに共通のコンテンツ フィールドを説明します。特定のアラート グループ メッセージに固有のフィールドは、共通フィールドの間にあるポイントで挿入されます。挿入ポイントを表に示します。
- 表 6 では、対処的メッセージ（TAC ケースが必要なシステム障害）および予防的メッセージ（システム パフォーマンスの低下を招くような問題）の挿入済みコンテンツ フィールドを説明します。
- 表 7 では、コンポーネント メッセージの挿入済みコンテンツ フィールドを説明します。

このセクションには、サンプル メッセージを記載した次のサブセクションも含まれています。

- 「Long-Text 形式でのサンプル Syslog アラート通知」(P.29)
- 「XML 形式でのサンプル Syslog アラート通知」(P.32)

表 4 Short Text メッセージのフォーマット

データ項目	説明
デバイス ID	設定されたデバイス名
日時タイムスタンプ	トリガー イベントのタイムスタンプ
エラー分離メッセージ	トリガー イベントの英語によるわかりやすい説明
アラーム緊急度レベル	システム メッセージに適用されるようなエラー レベル

表 5 すべての Long Text および XML メッセージの共通フィールド

データ項目 (プレーン テキスト および XML)	説明 (プレーン テキストおよび XML)	MML タグ (XML だけ)
Time stamp	ISO 時間表記によるイベントの日時スタンプ： YYYY-MM-DD HH:MM:SS GMT+HH:MM	CallHome/EventTime
Message name	メッセージの名前。特定のイベント名の一覧を「アラート グループ トリガー イベントおよびコマンド」(P.24) に示し ます。	Short-text メッセージ専用
Message type	具体的には「Call Home」。	CallHome/Event/Type
Message subtype	特定のメッセージ タイプ：full、delta、test	CallHome/Event/SubType
Message group	具体的には「対処的」。デフォルトは「対処的」のため、任 意。	適用されない Long-text メッセージ専用
Severity level	メッセージの重大度（表 1 (P.11) を参照）。	Body/Block/Severity
Source ID	ワークフロー エンジンから経路指定する製品タイプ。これ は、通常は製品ファミリ名です。	Long-text メッセージ専用

表 5 すべての Long Text および XML メッセージの共通フィールド (続き)

データ項目 (プレーン テキスト および XML)	説明 (プレーン テキストおよび XML)	MML タグ (XML だけ)
Device ID	<p>エンド デバイス生成メッセージの一意のデバイス ID (UDI)。メッセージがファブリック スイッチに特定できない場合、このフィールドは空にする必要があります。形式は <i>type@Sid@serial</i> です。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <i>type</i> はバックプレーン IDPROM からの製品の型番です。</li> <li>• <i>@</i> は区切り文字です。</li> <li>• <i>Sid</i> は C で、シャーシ シリアル番号としてのシリアル ID を示します。</li> <li>• <i>serial</i> は Sid フィールドで特定された番号です。</li> </ul> <p>例: WS-C7206VXR@C@12345678</p>	CallHome/CustomerData/ ContractData/DeviceId
Customer ID	<p>任意のサポート サービスにより契約情報または他の ID に使用する任意のユーザ設定可能なフィールド。</p>	CallHome/CustomerData/ ContractData/CustomerId
Contract ID	<p>任意のサポート サービスにより契約情報または他の ID に使用する任意のユーザ設定可能なフィールド。</p>	CallHome/CustomerData/ ContractData/ContractId
Site ID	<p>シスコ提供 ID または代替サポート サービスに意味のある他のデータに使用する任意のユーザ設定可能なフィールド。</p>	CallHome/CustomerData/ ContractData/SiteId
Server ID	<p>メッセージがファブリック スイッチから生成されている場合、スイッチの一意のデバイス ID (UDI) になります。形式は <i>type@Sid@serial</i> です。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <i>type</i> はバックプレーン IDPROM からの製品の型番です。</li> <li>• <i>@</i> は区切り文字です。</li> <li>• <i>Sid</i> は C で、シャーシ シリアル番号としてのシリアル ID を示します。</li> <li>• <i>serial</i> は Sid フィールドで特定された番号です。</li> </ul> <p>例: WS-C7206VXR@C@12345678</p>	Long-text メッセージ専用
Message description	<p>エラーを記述した short-text。</p>	CallHome/MessageDescription
Device name	<p>イベントが発生したノード。デバイスのホスト名です。</p>	CallHome/CustomerData/ SystemInfo/NameName
Contact name	<p>イベントが発生したノードに関連する問題の連絡担当者名。</p>	CallHome/CustomerData/ SystemInfo/Contact
Contact e-mail	<p>このユニットの連絡先として指定された担当者の E メールアドレス。</p>	CallHome/CustomerData/ SystemInfo/ContactEmail
Contact phone number	<p>このユニットの連絡先として指定された担当者の電話番号。</p>	CallHome/CustomerData/ SystemInfo/ContactPhoneNumber
Street address	<p>このユニットに関連した RMA 製品の出荷先の住所を記載した任意のフィールド。</p>	CallHome/CustomerData/ SystemInfo/StreetAddress
Model name	<p>ルータのモデル名。製品ファミリ名の一部である固有モデルです。</p>	CallHome/Device/Cisco_Chassis/ Model

表 5 すべての Long Text および XML メッセージの共通フィールド (続き)

データ項目 (プレーンテキスト および XML)	説明 (プレーンテキストおよび XML)	MML タグ (XML だけ)
Serial number	ユニットのシャーシのシリアル番号。	CallHome/Device/Cisco_Chassis/ SerialNumber
Chassis part number	シャーシ上面のアセンブリ番号。	CallHome/Device/Cisco_Chassis/ AdditionalInformation/AD@name= "PartNumber"
System object ID	システムを一意に識別するシステム オブジェクト ID。	CallHome/Device/Cisco_Chassis/ AdditionalInformation/AD@name= "sysObjectID"
System description	管理対象要素のシステム説明。	CallHome/Device/Cisco_Chassis/ AdditionalInformation/AD@name= "sysDescr"

特定のアラート グループ メッセージに固有のフィールドがここに挿入されます。

このアラート グループに複数の CLI コマンドを実行すると、次のフィールドが繰り返し挿入される場合があります。

Command output name	発行された CLI コマンドの完全名。	/aml/Attachments/Attachment/Name
Attachment type	アタッチメントのタイプ。通常は「インライン」です。	/aml/Attachments/Attachment@type
MIME type	通常は「テキスト」または「プレーン」あるいは符号化タイプです。	/aml/Attachments/Attachment/ Data@encoding
Command output text	自動的に実行されたコマンドの出力 (表 3 (P.24) を参照)。	/mml/attachments/attachment/atdata

表 6 対処的または予防的イベント メッセージの挿入フィールド

データ項目 (プレーンテキスト および XML)	説明 (プレーンテキストおよび XML)	MML タグ (XML だけ)
Chassis hardware version	シャーシのハードウェア バージョン。	CallHome/Device/Cisco_Chassis/ HardwareVersion
Supervisor module software version	上位ソフトウェア バージョン。	CallHome/Device/Cisco_Chassis/ AdditionalInformation/AD@name= "SoftwareVersion"
Affected FRU name	イベント メッセージを生成する影響を受ける FRU の名前。	CallHome/Device/Cisco_Chassis/ Cisco_Card/Model
Affected FRU serial number	影響を受ける FRU のシリアル番号。	CallHome/Device/Cisco_Chassis/ Cisco_Card/SerialNumber
Affected FRU part number	影響を受ける FRU の製品番号。	CallHome/Device/Cisco_Chassis/ Cisco_Card/PartNumber
FRU slot	イベント メッセージを生成する FRU のスロット番号。	CallHome/Device/Cisco_Chassis/ Cisco_Card/LocationWithinContainer

表 6 対処的または予防的イベントメッセージの挿入フィールド (続き)

データ項目 (プレーンテキスト および XML)	説明 (プレーンテキストおよび XML)	MML タグ (XML だけ)
FRU hardware version	影響を受ける FRU のハードウェアバージョン。	CallHome/Device/Cisco_Chassis/ Cisco_Card/HardwareVersion
FRU software version	影響を受ける FRU で実行しているソフトウェアバージョン。	CallHome/Device/Cisco_Chassis/ Cisco_Card/SoftwareIdentity/ VersionString

表 7 コンポーネント イベントメッセージの挿入フィールド

データ項目 (プレーンテキスト および XML)	説明 (プレーンテキストおよび XML)	MML タグ (XML だけ)
Chassis hardware version	シャーシのハードウェアバージョン。	CallHome/Device/Cisco_Chassis/ HardwareVersion
Supervisor module software version	上位ソフトウェアバージョン。	CallHome/Device/Cisco_Chassis/ AdditionalInformation/AD@name= "SoftwareVersion"
FRU Name	イベントメッセージを生成する影響を受ける FRU の名前。	CallHome/Device/Cisco_Chassis/ Cisco_Card/Model
FRU s/n	FRU のシリアル番号。	CallHome/Device/Cisco_Chassis/ Cisco_Card/SerialNumber
FRU part number	FRU の製品番号。	CallHome/Device/Cisco_Chassis/ Cisco_Card/PartNumber
FRU slot	FRU のスロット番号。	CallHome/Device/Cisco_Chassis/ Cisco_Card/LocationWithinContainer
FRU hardware version	FRU のハードウェアバージョン。	CallHome/Device/Cisco_Chassis/ CiscoCard/HardwareVersion
FRU software version	FRU で実行しているソフトウェアバージョン。	CallHome/Device/Cisco_Chassis/ Cisco_Card/SoftwareIdentity/ VersionString

## Long-Text 形式でのサンプル Syslog アラート通知

次に、long-text 形式での Syslog アラート通知の例を示します。

```

TimeStamp : 2009-02-05 07:03 GMT+00:00
Message Name : syslog
Message Type : Call Home
Message Group : reactive
Severity Level : 2
Source ID : C7200 Family
Device ID : c7206VXR@C@1234567
Customer ID : ExampleCorp
Contract ID : X1234
Site ID : ACD
Server ID : c7206VXR@C@1234567

```

```

Event Description : *Feb  5 07:03:11.879: %CLEAR-5-COUNTERS: Clear counter on all
interfaces by console
System Name : NPE-G1
Contact Email : abc@example.com
Contact Phone : +1-408-123-4567
Street Address : 1234 Any street, Any City, Any State 12345
Affected Chassis : c7206VXR
Affected Chassis Serial Number : 1234567
Affected Chassis Part No : 12-3456-78
Affected Chassis Hardware Version : 2.6
Supervisor Software Version : 12.4(20090202:121229)
Command Output Name : show logging
Attachment Type : command output
MIME Type : text/plain
Command Output Text :
Syslog logging: enabled (0 messages dropped, 2 messages rate-limited,
                    0 flushes, 0 overruns, xml disabled, filtering disabled)
No Active Message Discriminator.
No Inactive Message Discriminator.
  Console logging: level debugging, 76 messages logged, xml disabled,
                    filtering disabled
  Monitor logging: level debugging, 0 messages logged, xml disabled,
                    filtering disabled
  Buffer logging:   level debugging, 76 messages logged, xml disabled,
                    filtering disabled
  Logging Exception size (8192 bytes)
  Count and timestamp logging messages: disabled
  Persistent logging: disabled
No active filter modules.
ESM: 0 messages dropped
  Trap logging: level informational, 38 message lines logged
Log Buffer (8192 bytes):
*Feb  3 19:15:19.391: %LINK-3-UPDOWN: Interface GigabitEthernet0/1, changed state to up
*Feb  3 19:15:19.395: %LINEPROTO-5-UPDOWN: Line protocol on Interface VoIP-Null0, changed
state to up
*Feb  3 19:15:19.395: %LINK-3-UPDOWN: Interface GigabitEthernet0/2, changed state to up
*Feb  3 19:15:19.395: %LINK-3-UPDOWN: Interface GigabitEthernet0/3, changed state to up
*Feb  3 19:15:19.399: %LINEPROTO-5-UPDOWN: Line protocol on Interface SSLVPN-VIF0, changed
state to up
*Feb  3 19:15:20.391: %LINEPROTO-5-UPDOWN: Line protocol on Interface GigabitEthernet0/1,
changed state to down
*Feb  3 19:15:20.395: %LINEPROTO-5-UPDOWN: Line protocol on Interface GigabitEthernet0/2,
changed state to down
*Feb  3 19:15:20.395: %LINEPROTO-5-UPDOWN: Line protocol on Interface GigabitEthernet0/3,
changed state to up
*Feb  3 19:15:21.611: %SYS-5-CONFIG_I: Configured from memory by console
*Feb  3 19:15:22.619: %SYS-5-RESTART: System restarted --
Cisco IOS Software, 7200 Software (C7200-ADVENTERPRISEK9-M), Experimental Version
12.4(20090202:121229)
Copyright (c) 1986-2009 by Cisco Systems, Inc.
Compiled Tue 03-Feb-09 04:56 by abc
*Feb  3 19:15:22.851: %CRYPTO-6-ISAKMP_ON_OFF: ISAKMP is OFF
*Feb  3 19:15:22.851: %CRYPTO-6-GDOI_ON_OFF: GDOI is OFF
*Feb  3 19:15:22.923: %SNMP-5-COLDSTART: SNMP agent on host NPE-G1 is undergoing a cold
start
*Feb  3 19:15:23.479: %SYS-6-BOOTTIME: Time taken to reboot after reload = 1133 seconds
*Feb  3 19:15:24.035: %LINK-3-UPDOWN: Interface GigabitEthernet0/1, changed state to down
*Feb  3 19:15:24.035: %LINK-3-UPDOWN: Interface GigabitEthernet0/2, changed state to down
*Feb  3 19:15:24.359: %LINK-3-UPDOWN: Interface GigabitEthernet0/3, changed state to down
*Feb  3 19:15:26.799: %LINK-3-UPDOWN: Interface GigabitEthernet0/3, changed state to up
*Feb  3 19:31:35.231: %SYS-5-CONFIG_I: Configured from console by console
*Feb  3 19:32:55.855: cli_history_entry_add: free_hist_list size=0, hist_list size=7
*Feb  3 19:32:55.855: check_eem_cli_policy_handler: command_string=test c7200 power supply
off

```

```

*Feb 3 19:32:55.855: check_eem_cli_policy_handler: num_matches = 0, response_code = 1
*Feb 3 19:32:55.855: fh_fd_env_event_match: num_matches = 0
*Feb 3 19:32:55.855: fh_fd_env_event_notify:
*Feb 3 19:33:00.003: fh_fd_timer_process_async
*Feb 3 19:33:00.003: cron_tick: num_matches 0
*Feb 3 19:33:11.567: cli_history_entry_add: free_hist_list size=0, hist_list size=7
*Feb 3 19:33:11.567: check_eem_cli_policy_handler: command_string=test c7200 power supply
on
*Feb 3 19:33:11.567: check_eem_cli_policy_handler: num_matches = 0, response_code = 1
*Feb 3 19:33:11.567: fh_fd_env_event_match: num_matches = 0
*Feb 3 19:33:11.567: fh_fd_env_event_notify:
*Feb 3 19:33:35.735: cli_history_entry_add: free_hist_list size=0, hist_list size=7
*Feb 3 19:33:35.735: check_eem_cli_policy_handler: command_string=test c7200 volt major
*Feb 3 19:33:35.735: check_eem_cli_policy_handler: num_matches = 0, response_code = 1
*Feb 3 19:33:35.735: fh_fd_env_event_match: num_matches = 0
*Feb 3 19:33:35.735: fh_fd_env_event_notify:
*Feb 3 19:33:41.771: cli_history_entry_add: free_hist_list size=0, hist_list size=7
*Feb 3 19:33:41.771: check_eem_cli_policy_handler: command_string=test c7200 volt minor
*Feb 3 19:33:41.771: check_eem_cli_policy_handler: num_matches = 0, response_code = 1
*Feb 3 19:33:41.771: fh_fd_env_event_match: num_matches = 0
*Feb 3 19:33:41.771: fh_fd_env_event_notify:
*Feb 3 19:33:53.171: cli_history_entry_add: free_hist_list size=0, hist_list size=7
*Feb 3 19:33:53.171: check_eem_cli_policy_handler: command_string=test c7200 temp major
*Feb 3 19:33:53.171: check_eem_cli_policy_handler: num_matches = 0, response_code = 1
*Feb 3 19:33:53.171: fh_fd_env_event_match: num_matches = 0
*Feb 3 19:33:53.171: fh_fd_env_event_notify:
*Feb 3 19:33:58.987: cli_history_entry_add: free_hist_list size=0, hist_list size=7
*Feb 3 19:33:58.987: check_eem_cli_policy_handler: command_string=test c7200 temp minor
*Feb 3 19:33:58.987: check_eem_cli_policy_handler: num_matches = 0, response_code = 1
*Feb 3 19:33:58.987: fh_fd_env_event_match: num_matches = 0
*Feb 3 19:33:58.987: fh_fd_env_event_notify:
*Feb 3 19:34:00.003: fh_fd_timer_process_async
*Feb 3 19:34:00.003: cron_tick: num_matches 0
*Feb 3 19:35:00.003: fh_fd_timer_process_async
*Feb 3 19:35:00.003: cron_tick: num_matches 0
*Feb 3 19:36:00.003: fh_fd_timer_process_async
*Feb 3 19:36:00.003: cron_tick: num_matches 0
*Feb 3 19:36:59.851: cli_history_entry_add: free_hist_list size=0, hist_list size=7
*Feb 3 19:36:59.851: check_eem_cli_policy_handler: command_string=undebg all
*Feb 3 19:36:59.851: check_eem_cli_policy_handler: num_matches = 0, response_code = 1
*Feb 4 18:05:33.990: %LINK-3-UPDOWN: Interface GigabitEthernet0/2, changed state to up
*Feb 4 18:05:34.990: %LINEPROTO-5-UPDOWN: Line protocol on Interface GigabitEthernet0/2,
changed state to up
*Feb 4 18:05:52.842: %OIR-6-INSCARD: Card inserted in slot 2, interfaces administratively
shut down
*Feb 4 18:05:56.822: %GBIC_SECURITY-6-SFP_INSERTED: Transceiver SFP Unknown module
inserted in POS2/0
*Feb 4 18:05:59.750: %LINEPROTO-5-UPDOWN: Line protocol on Interface POS2/0, changed
state to down
*Feb 4 18:05:59.762: %LINEPROTO-5-UPDOWN: Line protocol on Interface POS2/1, changed
state to down
*Feb 4 18:31:42.862: %SYS-5-CONFIG_I: Configured from console by console
*Feb 4 18:31:58.594: %IP-4-DUPADDR: Duplicate address 20.2.13.13 on GigabitEthernet0/2,
sourced by 0013.1989.1900
*Feb 4 18:32:19.830: %SYS-5-CONFIG_I: Configured from console by console
*Feb 4 18:35:19.802: %SYS-5-CONFIG_I: Configured from console by console
*Feb 4 18:35:37.130: %SYS-5-CONFIG_I: Configured from console by console
*Feb 4 18:43:05.914: %SYS-5-CONFIG_I: Configured from console by console
*Feb 4 18:43:06.926: %LINK-5-CHANGED: Interface GigabitEthernet0/1, changed state to
administratively down
*Feb 5 06:59:58.803: %SYS-5-CONFIG_I: Configured from console by console
*Feb 5 07:00:14.315: %CLEAR-5-COUNTERS: Clear counter on all interfaces by console
*Feb 5 07:03:05.675: %SYS-5-CONFIG_I: Configured from console by console
NPE-G1#

```

```

Command Output Name : show inventory
Attachment Type : command output
MIME Type : text/plain
Command Output Text : NAME: "Chassis", DESCR: "Cisco 7206VXR, 6-slot chassis"
PID: CISCO7206VXR      , VID:      , SN: 1234567
NAME: "NPE-G1 0", DESCR: "Cisco 7200 Series Network Processing Engine NPE-G1"
PID: NPE-G1           , VID:      , SN: 12345678
NAME: "disk2", DESCR: "128MB Compact Flash Disk for NPE-G1"
PID: MEM-NPE-G1-FLD128 , VID:      , SN:
NAME: "module 0", DESCR: "C7200 Port Adapter Jacket Card"
PID: C7200-JC-PA      , VID: V01 , SN: 12345672
NAME: "module 2", DESCR: "Dual OC3 POS Single Wide Port Adapter"
PID: PA-POS-2OC3     , VID:      , SN: 12345673
NAME: "Power Supply 1", DESCR: "Cisco 7200 AC Power Supply"
PID: PWR-7200-AC     , VID:      , SN:
NAME: "Power Supply 2", DESCR: "Cisco 7200 AC Power Supply"
PID: PWR-7200-AC     , VID:      , SN:
NPE-G1#
    
```

## XML 形式でのサンプル Syslog アラート通知

次に、XML 形式での Syslog アラート通知の例を示します。

```

<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<soap-env:Envelope xmlns:soap-env="http://www.w3.org/2003/05/soap-envelope">
<soap-env:Header>
<aml-session:Session xmlns:aml-session="http://www.cisco.com/2004/01/aml-session"
soap-env:mustUnderstand="true"
soap-env:role="http://www.w3.org/2003/05/soap-envelope/role/next">
<aml-session:To>http://tools.cisco.com/neddce/services/DDCEService</aml-session:To>
<aml-session:Path>
<aml-session:Via>http://www.cisco.com/appliance/uri</aml-session:Via>
</aml-session:Path>
<aml-session:From>http://www.cisco.com/appliance/uri</aml-session:From>
<aml-session:MessageId>MC:26818315:CD350CFF</aml-session:MessageId>
</aml-session:Session>
</soap-env:Header>
<soap-env:Body>
<aml-block:Block xmlns:aml-block="http://www.cisco.com/2004/01/aml-block">
<aml-block:Header>
<aml-block:Type>syslog</aml-block:Type>
<aml-block:CreationDate>2009-02-05 07:00:15 GMT+00:00</aml-block:CreationDate>
<aml-block:Builder>
<aml-block:Name>C7200 Family</aml-block:Name>
<aml-block:Version>2.0</aml-block:Version>
</aml-block:Builder>
<aml-block:BlockGroup>
<aml-block:GroupId>GD:1234567:CABC1234</aml-block:GroupId>
<aml-block:Number>0</aml-block:Number>
<aml-block:IsLast>true</aml-block:IsLast>
<aml-block:IsPrimary>true</aml-block:IsPrimary>
<aml-block:WaitForPrimary>>false</aml-block:WaitForPrimary>
</aml-block:BlockGroup>
<aml-block:Severity>2</aml-block:Severity>
</aml-block:Header>
<aml-block:Content>
<ch:CallHome xmlns:ch="http://www.cisco.com/2005/05/callhome" version="1.0">
<ch:EventTime>2009-02-05 07:00:14 GMT+00:00</ch:EventTime>
<ch:MessageDescription>*Feb 5 07:00:14.315: %CLEAR-5-COUNTERS: Clear counter on all
interfaces by console</ch:MessageDescription>
<ch:Event>
<ch:Type>syslog</ch:Type>
    
```

```

<ch:SubType></ch:SubType>
<ch:Brand>Cisco Systems</ch:Brand>
<ch:Series>Cisco 7200 Series Routers</ch:Series>
</ch:Event>
<ch:CustomerData>
<ch:UserData>
<ch:Email>abc@example.com</ch:Email>
</ch:UserData>
<ch:ContractData>
<ch:CustomerId>ExampleCorp</ch:CustomerId>
<ch:SiteId>ACD</ch:SiteId>
<ch:ContractId>X1234</ch:ContractId>
<ch:DeviceId>c7206VXR@C@1234567</ch:DeviceId>
</ch:ContractData>
<ch:SystemInfo>
<ch:Name>NPE-G1</ch:Name>
<ch:Contact></ch:Contact>
<ch:ContactEmail>abc@example.com</ch:ContactEmail>
<ch:ContactPhoneNumber>+1-408-123-4567</ch:ContactPhoneNumber>
<ch:StreetAddress>1234 Any street, Any City, Any State 12345</ch:StreetAddress>
</ch:SystemInfo>
<ch:CCOID></ch:CCOID>
</ch:CustomerData>
<ch:Device>
<rme:Chassis xmlns:rme="http://www.cisco.com/rme/4.0">
<rme:Model>c7206VXR</rme:Model>
<rme:HardwareVersion>2.6</rme:HardwareVersion>
<rme:SerialNumber>1234567</rme:SerialNumber>
<rme:AdditionalInformation>
<rme:AD name="PartNumber" value=" 73-1234-10" />
<rme:AD name="SoftwareVersion" value="12.4(20090202:121229)" />
<rme:AD name="SystemObjectId" value="1.2.3.4.5.6.7.8.222" />
<rme:AD name="SystemDescription" value="Cisco IOS Software, 7200 Software
(C7200-ADVENTERPRISEK9-M), Experimental Version 12.4(20090202:121229)
Copyright (c) 1986-2009 by Cisco Systems, Inc.
Compiled Tue 03-Feb-09 04:56 by abc" />
</rme:AdditionalInformation>
</rme:Chassis>
</ch:Device>
</ch:CallHome>
</aml-block:Content>
<aml-block:Attachments>
<aml-block:Attachment type="inline">
<aml-block:Name>show logging</aml-block:Name>
<aml-block:Data encoding="plain">
<![CDATA[
Syslog logging: enabled (0 messages dropped, 2 messages rate-limited,
                    0 flushes, 0 overruns, xml disabled, filtering disabled)
No Active Message Discriminator.
No Inactive Message Discriminator.
  Console logging: level debugging, 74 messages logged, xml disabled,
                    filtering disabled
  Monitor logging: level debugging, 0 messages logged, xml disabled,
                    filtering disabled
  Buffer logging:   level debugging, 74 messages logged, xml disabled,
                    filtering disabled
  Logging Exception size (8192 bytes)
  Count and timestamp logging messages: disabled
  Persistent logging: disabled
No active filter modules.
ESM: 0 messages dropped
  Trap logging: level informational, 36 message lines logged
Log Buffer (8192 bytes):
*Feb  3 19:15:19.391: %LINK-3-UPDOWN: Interface GigabitEthernet0/1, changed state to up

```

```

*Feb 3 19:15:19.395: %LINEPROTO-5-UPDOWN: Line protocol on Interface VoIP-Null0, changed
state to up
*Feb 3 19:15:19.395: %LINK-3-UPDOWN: Interface GigabitEthernet0/2, changed state to up
*Feb 3 19:15:19.395: %LINK-3-UPDOWN: Interface GigabitEthernet0/3, changed state to up
*Feb 3 19:15:19.399: %LINEPROTO-5-UPDOWN: Line protocol on Interface SSLVPN-VIF0, changed
state to up
*Feb 3 19:15:20.391: %LINEPROTO-5-UPDOWN: Line protocol on Interface GigabitEthernet0/1,
changed state to down
*Feb 3 19:15:20.395: %LINEPROTO-5-UPDOWN: Line protocol on Interface GigabitEthernet0/2,
changed state to down
*Feb 3 19:15:20.395: %LINEPROTO-5-UPDOWN: Line protocol on Interface GigabitEthernet0/3,
changed state to up
*Feb 3 19:15:21.611: %SYS-5-CONFIG_I: Configured from memory by console
*Feb 3 19:15:22.619: %SYS-5-RESTART: System restarted --
Cisco IOS Software, 7200 Software (C7200-ADVENTERPRISEK9-M), Experimental Version
12.4(20090202:121229)
Copyright (c) 1986-2009 by Cisco Systems, Inc.
Compiled Tue 03-Feb-09 04:56 by abc
*Feb 3 19:15:22.851: %CRYPTO-6-ISAKMP_ON_OFF: ISAKMP is OFF
*Feb 3 19:15:22.851: %CRYPTO-6-GDOI_ON_OFF: GDOI is OFF
*Feb 3 19:15:22.923: %SNMP-5-COLDSTART: SNMP agent on host NPE-G1 is undergoing a cold
start
*Feb 3 19:15:23.479: %SYS-6-BOOTTIME: Time taken to reboot after reload = 1133 seconds
*Feb 3 19:15:24.035: %LINK-3-UPDOWN: Interface GigabitEthernet0/1, changed state to down
*Feb 3 19:15:24.035: %LINK-3-UPDOWN: Interface GigabitEthernet0/2, changed state to down
*Feb 3 19:15:24.359: %LINK-3-UPDOWN: Interface GigabitEthernet0/3, changed state to down
*Feb 3 19:15:26.799: %LINK-3-UPDOWN: Interface GigabitEthernet0/3, changed state to up
*Feb 3 19:31:35.231: %SYS-5-CONFIG_I: Configured from console by console
*Feb 3 19:32:55.855: cli_history_entry_add: free_hist_list size=0, hist_list size=7
*Feb 3 19:32:55.855: check_eem_cli_policy_handler: command_string=test c7200 power supply
off
*Feb 3 19:32:55.855: check_eem_cli_policy_handler: num_matches = 0, response_code = 1
*Feb 3 19:32:55.855: fh_fd_env_event_match: num_matches = 0
*Feb 3 19:32:55.855: fh_fd_env_event_notify:
*Feb 3 19:33:00.003: fh_fd_timer_process_async
*Feb 3 19:33:00.003: cron_tick: num_matches 0
*Feb 3 19:33:11.567: cli_history_entry_add: free_hist_list size=0, hist_list size=7
*Feb 3 19:33:11.567: check_eem_cli_policy_handler: command_string=test c7200 power supply
on
*Feb 3 19:33:11.567: check_eem_cli_policy_handler: num_matches = 0, response_code = 1
*Feb 3 19:33:11.567: fh_fd_env_event_match: num_matches = 0
*Feb 3 19:33:11.567: fh_fd_env_event_notify:
*Feb 3 19:33:35.735: cli_history_entry_add: free_hist_list size=0, hist_list size=7
*Feb 3 19:33:35.735: check_eem_cli_policy_handler: command_string=test c7200 volt major
*Feb 3 19:33:35.735: check_eem_cli_policy_handler: num_matches = 0, response_code = 1
*Feb 3 19:33:35.735: fh_fd_env_event_match: num_matches = 0
*Feb 3 19:33:35.735: fh_fd_env_event_notify:
*Feb 3 19:33:41.771: cli_history_entry_add: free_hist_list size=0, hist_list size=7
*Feb 3 19:33:41.771: check_eem_cli_policy_handler: command_string=test c7200 volt minor
*Feb 3 19:33:41.771: check_eem_cli_policy_handler: num_matches = 0, response_code = 1
*Feb 3 19:33:41.771: fh_fd_env_event_match: num_matches = 0
*Feb 3 19:33:41.771: fh_fd_env_event_notify:
*Feb 3 19:33:53.171: cli_history_entry_add: free_hist_list size=0, hist_list size=7
*Feb 3 19:33:53.171: check_eem_cli_policy_handler: command_string=test c7200 temp major
*Feb 3 19:33:53.171: check_eem_cli_policy_handler: num_matches = 0, response_code = 1
*Feb 3 19:33:53.171: fh_fd_env_event_match: num_matches = 0
*Feb 3 19:33:53.171: fh_fd_env_event_notify:
*Feb 3 19:33:58.987: cli_history_entry_add: free_hist_list size=0, hist_list size=7
*Feb 3 19:33:58.987: check_eem_cli_policy_handler: command_string=test c7200 temp minor
*Feb 3 19:33:58.987: check_eem_cli_policy_handler: num_matches = 0, response_code = 1
*Feb 3 19:33:58.987: fh_fd_env_event_match: num_matches = 0
*Feb 3 19:33:58.987: fh_fd_env_event_notify:
*Feb 3 19:34:00.003: fh_fd_timer_process_async
*Feb 3 19:34:00.003: cron_tick: num_matches 0

```

```

*Feb 3 19:35:00.003: fh_fd_timer_process_async
*Feb 3 19:35:00.003: cron_tick: num_matches 0
*Feb 3 19:36:00.003: fh_fd_timer_process_async
*Feb 3 19:36:00.003: cron_tick: num_matches 0
*Feb 3 19:36:59.851: cli_history_entry_add: free_hist_list size=0, hist_list size=7
*Feb 3 19:36:59.851: check_eem_cli_policy_handler: command_string=undebug all
*Feb 3 19:36:59.851: check_eem_cli_policy_handler: num_matches = 0, response_code = 1
*Feb 4 18:05:33.990: %LINK-3-UPDOWN: Interface GigabitEthernet0/2, changed state to up
*Feb 4 18:05:34.990: %LINEPROTO-5-UPDOWN: Line protocol on Interface GigabitEthernet0/2,
changed state to up
*Feb 4 18:05:52.842: %OIR-6-INSCARD: Card inserted in slot 2, interfaces administratively
shut down
*Feb 4 18:05:56.822: %GBIC_SECURITY-6-SFP_INSERTED: Transceiver SFP Unknown module
inserted in POS2/0
*Feb 4 18:05:59.750: %LINEPROTO-5-UPDOWN: Line protocol on Interface POS2/0, changed
state to down
*Feb 4 18:05:59.762: %LINEPROTO-5-UPDOWN: Line protocol on Interface POS2/1, changed
state to down
*Feb 4 18:31:42.862: %SYS-5-CONFIG_I: Configured from console by console
*Feb 4 18:31:58.594: %IP-4-DUPADDR: Duplicate address 20.2.13.13 on GigabitEthernet0/2,
sourced by 0013.1989.1900
*Feb 4 18:32:19.830: %SYS-5-CONFIG_I: Configured from console by console
*Feb 4 18:35:19.802: %SYS-5-CONFIG_I: Configured from console by console
*Feb 4 18:35:37.130: %SYS-5-CONFIG_I: Configured from console by console
*Feb 4 18:43:05.914: %SYS-5-CONFIG_I: Configured from console by console
*Feb 4 18:43:06.926: %LINK-5-CHANGED: Interface GigabitEthernet0/1, changed state to
administratively down
*Feb 5 06:59:58.803: %SYS-5-CONFIG_I: Configured from console by console
NPE-G1#]]></aml-block:Data>
</aml-block:Attachment>
<aml-block:Attachment type="inline">
<aml-block:Name>show inventory</aml-block:Name>
<aml-block:Data encoding="plain">
<![CDATA[NAME: "Chassis", DESCR: "Cisco 7206VXR, 6-slot chassis"
PID: CISCO7206VXR , VID: , SN: 1234567
NAME: "NPE-G1 0", DESCR: "Cisco 7200 Series Network Processing Engine NPE-G1"
PID: NPE-G1 , VID: , SN: 12345671
NAME: "disk2", DESCR: "128MB Compact Flash Disk for NPE-G1"
PID: MEM-NPE-G1-FLD128 , VID: , SN:
NAME: "module 0", DESCR: "C7200 Port Adapter Jacket Card"
PID: C7200-JC-PA , VID: V01 , SN: 12345672
NAME: "module 2", DESCR: "Dual OC3 POS Single Wide Port Adapter"
PID: PA-POS-2OC3 , VID: , SN: 12345673
NAME: "Power Supply 1", DESCR: "Cisco 7200 AC Power Supply"
PID: PWR-7200-AC , VID: , SN:
NAME: "Power Supply 2", DESCR: "Cisco 7200 AC Power Supply"
PID: PWR-7200-AC , VID: , SN:
NPE-G1#]]></aml-block:Data>
</aml-block:Attachment>
</aml-block:Attachments>
</aml-block:Block>
</soap-env:Body>
</soap-env:Envelope>

```

## その他の参考資料

この章では、Call Home 機能に関連する参考資料を説明します。

### 関連資料

関連トピック	マニュアル タイトル
Smart Call Home サービスが選択したシスコ デバイスに Web アクセスする方法、また予防的診断を行い、リアルタイム アラートを提供することでネットワークのオペラビリティと運用効率を向上させる方法を説明します。	<a href="#">『Smart Call Home User Guide』</a>
3 つの転送オプションを使用して、Smart Call Home に Cisco 7200 シリーズ ルータを設定および登録するための情報を提供します。	<a href="#">『Smart Call Home Quick Start Configuration Guide』</a>

## シスコのテクニカル サポート

説明	リンク
<p>Cisco Support Web サイトでは、オンラインで資料やツールなど幅広いリソースを利用して、トラブルシューティングやシスコ製品およびテクノロジーに関する技術上の問題の解決に役立てることができます。</p> <p>以下を含むさまざまな作業にこの Web サイトが役立ちます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• テクニカル サポートを受ける</li> <li>• ソフトウェアをダウンロードする</li> <li>• セキュリティの脆弱性を報告する、またはシスコ製品のセキュリティ問題に対する支援を受ける</li> <li>• ツールおよびリソースへアクセスする</li> <li>• Product Alert の受信登録</li> <li>• Field Notice の受信登録</li> <li>• Bug Toolkit を使用した既知の問題の検索</li> <li>• Networking Professionals (NetPro) コミュニティで、技術関連のディスカッションに参加する</li> <li>• トレーニング リソースへアクセスする</li> <li>• TAC Case Collection ツールを使用して、ハードウェアや設定、パフォーマンスに関する一般的な問題をインタラクティブに特定および解決する</li> </ul> <p>Cisco Support Web サイト上のツールにアクセスする際は、いずれも Cisco.com のログイン ID およびパスワードが必要です。</p>	<p><a href="http://www.cisco.com/en/US/support/index.html">http://www.cisco.com/en/US/support/index.html</a></p>

## コマンドリファレンス

すべての Cisco IOS コマンドの詳細については、Command Lookup Tool (<http://tools.cisco.com/Support/CLILookup>)、または『Cisco IOS Master Command List, All Releases』 ([http://www.cisco.com/en/US/docs/ios/mcl/allreleasemcl/all\\_book.html](http://www.cisco.com/en/US/docs/ios/mcl/allreleasemcl/all_book.html)) を参照してください。

VRF Call Home コマンドの詳細については、次の URL を参照してください。

[http://www.cisco.com/en/US/docs/ios/ha/command/reference/ha\\_s3.html#wp1144302](http://www.cisco.com/en/US/docs/ios/ha/command/reference/ha_s3.html#wp1144302)

## Call Home の機能情報

表 8 に Cisco 7200 シリーズ ルータのこの機能のリリース履歴の一覧を示します。

すべてのコマンドがご使用の Cisco IOS ソフトウェア リリースで使用できるわけではありません。特定の コマンドのリリース情報については、コマンドリファレンス マニュアルを参照してください。

プラットフォーム サポートおよびソフトウェア イメージ サポートの情報を検索するには、Cisco Feature Navigator を使用します。Cisco Feature Navigator により、どの Cisco IOS、Catalyst OS、および Cisco IOS XE ソフトウェア イメージが特定のソフトウェア リリース、フィーチャセット、またはプラットフォームをサポートするか判断できます。Cisco Feature Navigator にアクセスするには、次の URL <http://www.cisco.com/go/cfn> を参照してください。Cisco.com のアカウントは必要ありません。



(注) 表 8 に、所定の、一連の Cisco IOS ソフトウェア リリースのある機能をサポートする Cisco IOS ソフトウェア リリースだけの一覧を示します。特にことわりがない限り、一連の当該 Cisco IOS ソフトウェア リリースの以降のリリースでも該当機能がサポートされます。

表 8 Call Home の機能情報

機能名	リリース	機能情報
Call Home	12.4 (24) T 12.2 (33) SRE1	Call Home は、クリティカルなシステム イベントを E メールおよび Web 上で通知します。ポケットベル サービス、標準 E メール、または XML ベース自動解析アプリケーションとの互換性を最適化するため、幅広いメッセージフォーマットが使用できます。  12.4 (24) T で、この機能のサポートが Cisco 7200 シリーズ ルータに追加されました。  現在 12.2 (33) SRE1 リリースまでサポートされています。

CCDE, CCENT, CCSI, Cisco Eos, Cisco Explorer, Cisco HealthPresence, Cisco IronPort, the Cisco logo, Cisco Nurse Connect, Cisco Pulse, Cisco SensorBase, Cisco StackPower, Cisco StadiumVision, Cisco TelePresence, Cisco TrustSec, Cisco Unified Computing System, Cisco WebEx, DCE, Flip Channels, Flip for Good, Flip Mino, Flipshare (Design), Flip Ultra, Flip Video, Flip Video (Design), Instant Broadband, and Welcome to the Human Network are trademarks; Changing the Way We Work, Live, Play, and Learn, Cisco Capital, Cisco Capital (Design), Cisco:Financed (Stylized), Cisco Store, Flip Gift Card, and One Million Acts of Green are service marks; and Access Registrar, Aironet, AllTouch, AsyncOS, Bringing the Meeting To You, Catalyst, CCDA, CCDP, CCIE, CCIP, CCNA, CCNP, CCSP, CCVP, Cisco, the Cisco Certified Internetwork Expert logo, Cisco IOS, Cisco Lumin, Cisco Nexus, Cisco Press, Cisco Systems, Cisco Systems Capital, the Cisco Systems logo, Cisco Unity, Collaboration Without Limitation, Continuum, EtherFast, EtherSwitch, Event Center, Explorer, Follow Me Browsing, GainMaker, iLYNX, IOS, iPhone, IronPort, the IronPort logo, Laser Link, LightStream, Linksys, MeetingPlace, MeetingPlace Chime Sound, MGX, Networkers, Networking Academy, PCNow, PIX, PowerKEY, PowerPanels, PowerTV, PowerTV (Design), PowerVu, Prisma, ProConnect, ROSA, SenderBase, SMARTnet, Spectrum Expert, StackWise, WebEx, and the WebEx logo are registered trademarks of Cisco and/or its affiliates in the United States and certain other countries.

All other trademarks mentioned in this document or website are the property of their respective owners. The use of the word partner does not imply a partnership relationship between Cisco and any other company. (1002R)

このマニュアルで使用している IP アドレスは、実際のアドレスを示すものではありません。マニュアル内の例、コマンド出力、および図は、説明のみを目的として使用されています。説明の中に実際のアドレスが使用されていたとしても、それは意図的なものではなく、偶然の一致によるものです。

© 2010 Cisco Systems, Inc.  
All rights reserved.

Copyright © 2010, シスコシステムズ合同会社.  
All rights reserved.